

市政の重要事項の報告

ポートルネッサンス21計画の新たな方向性

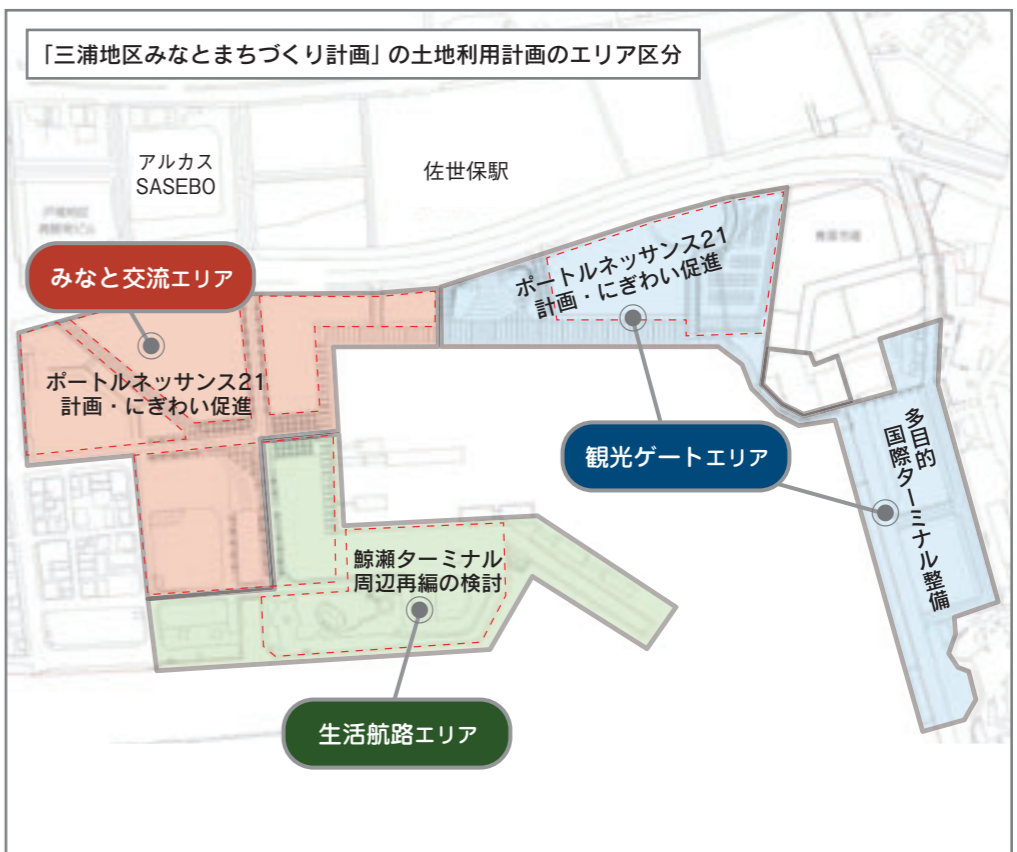
ポートルネッサンス21計画については、平成21年11月の事業予定者の撤退を受け、同年の12月定例市議会において、「今後改めて土地活用の方向性について再検討したい」旨を申し上げます。その後、約1年をかけて「企業動向調査」「市民アンケート調査」「関係者インタビュー」などを実施し、それらの結果を踏まえて白紙の状態から計画の見直しを行い、今般、同計画の新たな方向性を定めました。

まず、ポートルネッサンス21計画地の周辺では、多目的国際ターミナルの整備や鯨瀬ターミナル周辺の再編計画も検討を進めていますが、これらを「三浦地区みなとまちづくり計画」として一つにまとめて一体的なまちづくりを進め、九州サブゲートウェイ(副玄関口)の実現を目指したいと考えています。

土地利用計画については、これらの

の地区を次の3つのエリアに分類します。

- ①観光ゲートエリア(佐世保らしい水辺空間で、観光客を迎える場所)
市民が自由に使える貴重な水辺空間であり、隣接して整備中の多目的国際ターミナルと連携して、市の玄関口として、市民や観光客が憩える場所、交流できる場所になるよう、魅力づくりを推進します。
- ②みなと交流エリア(中心市街地のウォーターフロントとして、市民と観光客の交流からにぎわいが生まれる場所)
既成市街地との連続性を考慮しながら、民間活力によるにぎわいづくりを進めます。特に水辺に面した場所では、みなとの雰囲気演出します。
- ③生活航路エリア(近海航路や離島航路など生活航路の発着点)
鯨瀬ターミナル周辺の再編計画の検討を進めながら、市民生活に密接に関係する場所として、利便性の向上を図ります。



これらを踏まえた土地利用の基本方針は次のとおりです。

- ①水際の土地については、本市としても一等地であると考えており、売却してしまうと将来的に土地の用途が変わってしまうことも想定されることから、定期借地の余地は残

しつつも売却せず、本市が所有し、玄関口にふさわしい場所にします。

- ②平成21年、事業予定者が撤退した区域を中心とする「みなと交流エリア」については、従来どおり民間の参画によるにぎわい創出を目指していきます。これまでの売却に加え、

定期借地方式も導入し、地元事業者をはじめ民間の方々がより参入しやすくなるように選択肢を広げます。

③当該地造成に要した費用については、売却のみによる返済という方法はとらないものの、次善策として定期借地の賃借料等の収入増にも最大限に努力し、にぎわい創出による本市経済の活性化に資することができるよう進めていきます。

この方向性のとりまとめに当たっては、内部検討会議で検討し、都市整備委員会でも貴重な意見をいただきました。その中で、既存商店街への影響や鯨瀬ターミナル周辺再編計画との関連性などさまざまなご指摘をいただきましたので、具体的な公募の条件や募集、選考の方法などについては、内部検討会議を継続して開催し、来年度の早い時期にお示しできるよう取り組んでいきたいと思っております。

新規企業の立地

11月12日、株式会社インヴェンシブル佐世保工場の本市吉岡町への立地が決定しました。

同社は福岡市に本社を置く水産

物専門商社「株式会社かねは」の関連会社で、事業計画では主に辛子めんたい(こ)等の製造を行い、総投資額は4億2千万円、地元雇用は約70名で、平成23年4月の操業開始を予定されています。

初年度の生産額は4億円を見込まれ、本格稼働に移る2年目以降の生産額は約11億円を目指されており、同社の立地は本市の地域振興と活性化につながるものと期待しています。

今後さらなる企業誘致の推進と既存企業の支援強化に全力で取り組んでいきます。

海上自衛隊潜水隊群の誘致に関する要望

10月21日の新聞報道によると、防衛省では、海上自衛隊の潜水艦を現在の16隻態勢から22隻態勢へ移行する方針を固め、12月に取りまとめる新たな「防衛計画の大綱」に盛り込むとのことでした。

現時点において、新たな防衛大綱の詳細については明らかになっていませんが、報道のとおりであれば、昨今の国際情勢や地勢的にも、佐世

保港は東シナ海・南海海域を見据えた海上防衛の要衝であり、呉、横須賀に次ぐ新たな潜水艦群を設置するとした場合、適地であると考えられます。

佐世保市と佐世保市議会では、米海軍LCC施設が周辺地区から横瀬地区(西海市)に移転された後、その跡地に関しては、係船施設等を整備するなど、海上自衛隊に有効活用していただきたいとの要請を以前から国に対して行っています。

今回の報道を受け、私は海上自衛隊が周辺地区を活用する上からも、増設される潜水艦を受け入れられる施設の整備をぜひ図っていただきたいと思っており、11月17日に上京した際、防衛副大臣とお会いする機会がありましたので、直接、副大臣に今の私の考えを申し述べました。また、11月25日には、県とともに要望を行いました。

今後、次期防衛計画の大綱や、それに伴う中期防衛力整備計画に、どのような形で盛り込まれるのかは分かりませんが、引き続き情報収集に努めるとともに、海上自衛隊施設の充実、また、本市の更なる発展のために、機会を逸することなく、

国に対し要望していきたいと考えています。

佐世保勢の活躍

9月28日に千葉市で開催された「第65回国民体育大会」体操競技成年女子団体総合において、長崎県代表の監督として出場された椋本崇子(たかもと)さん、同じく選手として出場された本市出身の椋本啓子(たかもと)さん、大久保奈美(おおくぼ)さん、瀬尾(せお)さんの4名が準優勝されました。

10月27日に文部科学省などが主催する「楽しい子育て全国キャンペーン」の三行詩コンクール中学生の部で、崎辺中学校2年の立石京(たけし)さんの作品「ホツとする 働く母の置手紙」が、文部科学大臣賞に選ばれました。

これらの活躍は、選手や参加者、それを支える関係者の皆さんの絶え間ない努力がもたらしたものであり、市民の大きな誇りです。

※本文の内容は、朝長市長が12月定例市議会(11月26日)で報告した内容を抜粋し、要約(一部加筆)したものです。全文は市ホームページ「市長の部屋」に掲載しています。